

# 獄 中 記

<福山辰夫>

## 第七回

皇紀 2653 年【平成 5 年・西暦 1993 年】

9月22日(水)

午前中に、川越から両親と妻の3人が面会に来る。妻との面会は久方振りにて、だいぶ髪が伸びており印象が変わった感じがする。

帰り際に、本3冊とスポーツ紙『日刊スポーツ新聞』(3ヶ月分)の差し入れをして貰う。

9月23日(木) 秋分の日

「暑さ寒さも彼岸まで…」と言うが、みちのくの夏と秋は短くて、あっという間に過ぎ去ってしまう。昼餉時に「祝日菜」の給与有り。また、同房の者らは午後13時から15時30分迄、テレビ視聴を行っているが、小生は机に向かい「臨地」に勤しむ。

9月27日(月)

工場に出役し、『東北管区被収容者書画コンクール』の「書の部」に出展する半紙作品2点(『曹全碑・後漢』臨書)を工場担当の板橋看守部長経由で教育課に提出する。

それにしても肺を患った所為か、相変わらず季節の変わり目には体調を崩す。

朝の出役後、早々に工場備え付けの体温計で熱を測る。案の定、高熱があり特診を願い出る。

午前9時過ぎ頃、医務分室において医師の診察を受ける。

午後から「風邪で熱発」の為、病棟での入病となる。夕方、病棟の雑居房で流れるラジオ放送を聞いていると、本年度は異例の「梅雨明け無し」という仙台管区气象台からの発表を報じる。

10月5日(木)

8日ぶりに「休養解除」となり、午前10時過ぎ頃13工場に出役。

此度の入病では、群馬県太田市を縄張りとする「住吉会親和会光京一家」の定方さんの若衆であるAさんと同房になり、小生の親分である高島義雄親父が亡くなった事を話すと、「オジキが亡くなったのですか？」と驚いていた。囀囀（れいご）の中（うち）は、一般社会から隔絶された世界であり、娑婆での事象が伝わるのにも多少のタイムラグがあるのは致し方無い事だ。

尚、Aさんは、5工場に服しているとのことだが、今回は短期刑であり間もなく満期で出所するという。従って、休養初日はお互いに娑婆の話題に飢えていたこともあってか、彼是と語らう。

特に、小生が18歳から20歳過ぎ迄『久里浜特別少年院』で同期だった、定方さんの若衆であるK・Rの話をしたら、後輩で良く知っているとの事からK・Rの話題で花が咲く。然れども、Aさんは翌日9月28日には「休養解除」となって5工場へと戻ってしまう。

休養2日目からは話し相手もいなくなり、小生も早く工場に帰れるようにと休養に専念する。

工場に出役すると、過日に『歯科治療願』として医療課長宛に願い出ていた「義歯製作」の順番が巡ってきたと連絡が入る。

昼休憩を終えて、午後の作業が始まり直ぐに連行の若い看守が迎えに来たので、歯科治療を受ける他工場の懲役数名と共に、馬鹿らしく思いつつも、歩調を合わせながら医務本所へと行く。待合室に入室をし、暫し待たされるも、名前を呼ばれて歯科治療室に入り、診療台に座り問診。その後、左上奥歯の歯型を採取し、部分入れ歯の製作を依頼して診察終了。

**10月6日(水)**

昨日の「義歯製作」代金の支払い手続きとして、会計課長宛に『領置金支払願』と『領置金使用願』（\*製作代金として=4,614円也）の2枚を記載し、工場担当に提出する。

夕餉後、17時30分から18時30分迄、宗教教誨『神道』に同房のY氏（岩手県盛岡市住人）と共に出席。本日の教誨師は、宮司の大内先生であり、明治大帝の御製のコピーを各人に配り、全員で唱和する。

**国(くに)民もつねにこころをあらわなむ**

**みもすその川の清(きよ)き流れに**

**—明治天皇御製—**

神道は「浄明正直」＝神の道。即ち、惟神（カムながらの道＝カンながらの道）の道であり、その意とするものは「敬神崇祖」に行きつくのである。

それがたとえヤクザであろうが、右翼であろうとも、日本人としての矜持を持つものならば、民族のルーツと歴史・文化を知るべきであると犇々と思う次第也。

## 10月7日(木)

昼餉後に教育課の職員が迎え来たので、12時30分～13時30分迄『書道教室』に出席する。

10月から『平成5年度後期一般学習・私費通信教育課程』としての許可となり、今期から新たに受講するものが増えた為、喧嘩等でトラブルを起こした懲役同士や、社会で起こした事件の共犯者といった人間達とバッティングをしないよう、「学習生前期と後期」の切替え時になると、官の主導で班編会議が行われて、各自1班～4班迄の何れかの班に振り分けられる事になる。

今回の編成で小生は『3班』に編成され、同じ13工場では、無期で同房のSさんと、10年以上務める福島のKさんと小生の3名で出席する。

## 10月14日(木)

工場の定期発信日に付き、妻宛に便りを出す。9月22日(水)に面会に来てくれたお礼と、今は書道に励んでいる旨等の近況報告を認める(便箋7枚)。

## 10月16日(土)

午前中は10時から11時30分迄、慰問興行『新藤恵美ショー』が講堂で有り。小生の幼少の時分、当時非常に人気を博していた『美しきチャレンジャー』というTVドラマで、ボウリング少女役で主演を務めていたのが「新藤恵美」で、その後も「日活ロマンポルノ」作品に出演したりしていた。でも、どちらかというといひ女系が売りだったのでは…。

しかし、本日の司会者で、元々漫才師、漫談家という肩書を持つ「コロンビア・トップ」にしても、矢張り、現職の参議院議員の先生が当所に訪問となれば、滅多に刑務所の慰問等には顔を出さない所長が、自ら顔を出して立ち合い、そして慰問者達をねぎらっていた。平素は、我々懲役に対しては強気であるが、矢張り権力には媚びるようだ(笑)。それにしても、ショーは酷いもので「新藤恵美」の歌は、全てロパクであり、芸能人の慰問を楽しみにしている囚人にとっては、興醒めする程の粗末な内容であった。舎房に還房すると、皆が口々に文句を言っていた。

午後は、夕点検迄前まで筆を執り「臨地」に勤しむ。

## 10月20日(水) 皇后陛下御誕生日

終日、ワープロ作業を終えて還房。夕点検・夕餉を終え「余暇時間」となり、同囚達と寛いでいると、舎房北側の壁に埋め込まれているスピーカーから流れる、『TBCラジオ』(東北放送)のスポットニュースに衝撃を覚える。

それは、新右翼の教祖的存在である野村秋介氏が、『本日、朝日新聞社東京本社 15 階の役員応接室で中江利忠社長等と面会中、2 丁拳銃を胸に当てて自決した』と報じるものであった。

野村氏といえば、1963 年（昭和 38 年）7 月 15 日に『河野一郎邸焼き討ち事件』を起こして逮捕。懲役 12 年を「千葉刑務所」にて服役。しかし、出所後の 1977 年（昭和 52 年）3 月 3 日に『経団連襲撃事件』を起こして、懲役 6 年を「府中刑務所」にて再び服役。

また、昨年に行われた『第 16 回参議院選挙』では、日本青年社等が組織した「たたかう国民連合・風の会」から横山やすし他と共に比例区で立候補したものの、今回の原因となる『週刊朝日』（発行：朝日新聞社）に連載されている、風刺イラスト「ブラック・アングル」の紙面上で、連載者のイラストレーター・山藤章二が、「風の会」の風の部分の「ノ」を取って「凧（しらみ）の党」と揶揄。小生もこの社会風刺した掲載作品を、偶々同囚が購入していたので見たが、余りにも稚拙なる表現というか、国政選挙に打って出ている政党に対して「凧」と揶揄するのは如何なるものであろうか？

野村氏は、かねがね『朝日新聞社は、先の大戦に於ける戦争責任を認めよ』と言っていたが、「それは朝日が、報道機関として戦前・戦中は散々、戦争を煽っておきながら、戦後は一切そのやってきた事にほっかむりをし、反日偏向報道を行っている事は万死に値する」というもので、『週刊朝日』の発行元である『朝日新聞社』と刺し違える覚悟を持っていたのでは…。

これは余談乍ら、小生の大先輩に「住吉会日野一家」の福岡幸男さんという方がおられるが、福岡先輩は 1961 年（昭和 36 年）10 月、新宿で一大勢力を誇っていた東声会（当時）傘下の三声会（当時）会長の三木恢と東声会大幹部である陳八芳の両氏を射殺し、無期懲役で『千葉刑務所』に服役となった。その後、野村氏が『河野一郎邸焼き討ち事件』を起こし、懲役 12 年の刑期で『千葉刑務所』に服役したことで、二人が邂逅することになる訳だが、圀圍（れいご）の中（うち）にて意気投合した二人は、出所後も良く新宿界限で酒を酌み交わしていると聞いていた。

ただ、「住吉連合会」最後の会長である川口嘸史（あきら）のお通夜が平成 2 年 5 月、立川市の自宅であった際、帰る方角が一緒だったので、福岡先輩を所沢市内の自宅迄送って行く事になる。

その車中に於いて「新宿抗争」の時にどういった行動を起こしたかとか、千葉刑に服役して野村秋介氏との出会い等を伺わせて貰った。だから、今回の事件の共犯者であり、現在『岐阜刑務所』にて懲役 15 年を服役中の木元恵一兄貴からすれば、お前は右翼の方にも興味があるようだから、俺が未決で福岡先輩が面会に来た折に、「野村氏と酒席を共にする際には、必ずや福山に声を掛けてやって下さい」と、話してあるからという便りが来た事を思い出した。

野村氏と福岡先輩は昵懇の間柄故、小生の如きチンケなヤクザでも祖国の山河を愛し、日本人としての矜持を持つ者として、野村氏の思想的核心と 21 世紀に於ける民族運動について、どのような識見を持っているのか質問をしてみたかったものだ…。

先駆けて散りにし人の悲しみを  
わがものとせむこの道をゆく

—野村秋介辞世—

幕末の僧、釈月性の詩に「人間（じんかん）到る処青山あり」とあるが、サムライとは己が死に場所を求め、その時が来たら潔く命を絶つ「ハラ」がある者のことを言うのではなかろうかと、思い至る次第也。合掌

**10月21日(木)**

午前中に、川越から両親が面会の為に来仙。帰りに注文しておいた本 3 冊と、スポーツ紙『日刊スポーツ新聞』（3 か月分）の差し入れをして頂く。

**10月25日(月)**

『圖南書道會』の今月「漢字部・初段以下」規定課題作品 1 点を、工場担当経由で教育課に提出する。

**10月27日(水)**

先月 27 日（月）風邪の為、入病をしていたので「病舎経由」で書類が回ってきて、9 月分の賞与金の教示有り。入病期間が 3 日と半日でマイナス減でも、5 等工+5 割増=2,162 円也。

**10月29日(金)**

工場作業を終えて、還房後は工場区の定期私本配布日（購入・領置下付）に付き、購入の週刊誌 1 冊と領置下付を願い出していた『劇画 小説吉田学校 18 巻』（原作：戸川猪佐武、さいとうたかを・読売新聞社）、『項羽と劉邦(上)』（司馬遼太郎・新潮文庫）の 2 冊が手元に届く。

夜の余暇時間は、今月分の私本購入で届いた『これが新しい日本の右翼だー「恐い右翼」から「理解される右翼」へー』（「一水会」代表 鈴木邦男・日新報道）を耽読する。

## 10月30日(土) 教育勅語発布記念日

『教育勅語』は、1890年(明治23年)10月30日に発布され、翌31日付の官報等で公表された。その主旨は、国民の道徳の根源と国民教育の基本理念を明示するものである。

一般には『教育勅語』と言うが、公文書等では『教育ニ関スル勅語』と表現される。

特に、『教育勅語の十二の徳目』は現代日本でも通ずるもの也。

1. 孝行…親に孝養をつくしましょう。
2. 友愛…兄弟・姉妹は仲良くしましょう。
3. 夫婦の和…夫婦はいつも仲むつまじくしましょう。
4. 朋友の信…友だちはお互いに信じあって付き合ひましょう。
5. 謙遜…自分の言動をつつしみましょう。
6. 博愛…広く全ての人に愛の手を差しのべましょう。
7. 修学習業…勉学に励み職業を身につけましょう。
8. 智能啓発…知識を養い才能を伸ばしましょう。
9. 徳器成就…人格の向上につとめましょう
10. 公益世務…広く世の人々や社会のためになる仕事に励みましょう。
11. 遵法…法律や規則を守り社会の秩序に従いましょう。
12. 義勇…正しい勇気をもって国のため真心をつくしましょう。

此れこそが、「日本精神」の神髄ではなからうか。

## 11月1日(月) 自衛隊記念日

今日1日付にて、累進処遇4級から同3級へ「仮進級」となる。

小生の場合は、3か月間の休養生活やら『石鹼の不正授受』での「叱責懲罰」で、他囚よりも遅れて多少の苦労はしたものの、何はともあれ階段を一段上がる。

尚、3級になると処遇の上でも、月2回迄の発信と面会が許され、ひと月置きに『3級者集会』に出席が出来るようになる。その集会では毎月の作業賞与金の中から「300円程度」の範囲内で、ジュースとお菓子が買え、その購入したものを手にしてから講堂に集まり、VTR視聴を行いながら、購入したお菓子等を喫食するのである。

また、工場帽子の左側面と舎房上着の左胸に付けている「名札」も宮城刑務所の場合、4級の白色から3級の黄色へと変わり、誰が見ても「3級者」と分かるようになっているのだ。

### 11月3日(水) 文化の日

旧明治節。休業日にて午前中は、テレビVTR視聴が有り『裸の大将放浪記』（製作：関西テレビ。出演：芦屋雁之助、高見知佳、森繁久彌、山本學ほか）を舎房のテレビにて視聴する。放浪の画家と言われた「山下清」（芦屋雁之助）画伯をモデルにした物語で、テレビ番組の録画ものにて、1時間ドラマを2本続けての放映。昼餉時に、「祝日菜」の給与有り。午後から夕方の点検迄、テレビ視聴があるも筆を執り「臨地」に勤しむ。

### 11月5日(金)

妻から郵送による本の差入れ告知を受ける。内訳は、『ドキュメント ヤクザの王 浜本政吉と堀政夫』（安田雅企・青年館）、『評伝・赤尾敏』（猪野健治・オール出版）、『ツキを呼び込む九門家相術入門』（安藤昇・ごま書房）他、漫画本3冊の計6冊。

社会の人も、この不景気にて色々と大変であるのにも拘わらず、有り難い限り。

勿論、本はそのまま「会計課領置」となる為、領置本下付を願い出なければ手元には届かぬ。

### 11月8日(月)

平成6年の「年賀状購入願」（会計課長宛）願箋と、『圖南書道』の学習用教材として使用する、『四体細字 七言二句帖〈春〉』（大槻豊葉書・図南書道会出版部発行）、『四体細字 七言二句帖〈夏秋〉』（同）の2冊を購入する為、「特別購入願」（教育課長宛）と「領置金支払願」（会計課長宛）の願箋を工場担当に提出する。

### 11月11日(木)

工場定期発信日に付き、妻宛に便りを認める（便箋7枚）。

5日（金）に届いた本の郵送差入れの御礼と、1日付けで累進処遇が4級から3級に「進級」した旨、それにより発信・面会等の処遇が変わった旨等の近況報告。

また、10月分の賞与金教示が有り。5等工+5割増=2,648円也。